

# 農村の将来 離島で示す

松山・釣島集落に山崎記念農業賞

家族経営でかんきつの島を守る



表彰式で表彰状などを受け取った釣島町内会の池本会長(左)と山岡さん

守っている。

22日に都内で表彰式があり、研究所の小泉浩郎所長は「将来の日本の農業や農村の姿が展望でき、学ぶべき点が多い」と評価した。

表彰状を受け取った釣島町内会の池本三嗣会長(63)は「島を維持していかねばと、改めて重責を感じた。人口が減少する中、島が成り立つ方法を模索したい」と語った。

記念フォーラムでは、池本会長が集落の歴史や現状を説明。地元の人や山岡建夫さん(65)は、若手農家と先輩との交流や新品種の積極的な導入など、持続的な農業経営に向けた取り組みを紹介した。

(松本尚也)

農業や農村、食料の分野で成果を上げた個人や団体を顕彰する第41回「山崎記念農業賞」(山崎農業研究所主催)にこのほど、松山市沖の釣島(つるしま)集落が選ばれた。離島という環境にもかかわらず、家族経営によるかんきつ農業を持続させていることなどが評価された。選考委員会などによると、釣島(周囲約2・6キロ)は1994年まで定期航路がなく、現在も島外から通い農業を